

平成19年度決算について

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

1. 個別決算の概要

(1) 損益計算書

(単位：億円)

区 分	当 期 (A)	前 期 (B)	増 減		(参考) 事業計画	
			(C) = (A) - (B)	% (C) / (B)		
営業収益	高速道路事業	820	787	33	4.2	803
		※1 (776)		(1)	(0.2)	
	料金収入	770	775	△ 4	△ 0.5	757
	道路資産完成高	42	10	32	297.3	45
	その他の売上高	※1 6	1	5	431.7	—
関連事業	24	14	10	74.1	29	
	845	801	43	5.4	833	
営業費用	高速道路事業	804	763	40	5.3	802
	道路資産賃借料	574	578	△ 3	△ 0.6	550
	道路資産完成原価	42	10	32	297.3	45
	管理費用	187	174	12	7.0	206
	関連事業	23	12	10	82.0	29
	827	776	51	6.5	831	
営業利益	高速道路事業	16	23	△ 7	△ 30.9	1
	関連事業	1	1	0	1.1	0.3
	17	24	△ 7	△ 29.2	1	
経常利益	18	25	△ 6	△ 26.7	0.3	
当期純利益	8	12	△ 3	△ 28.6	※2 0.2	

※1 その他の売上高には、料金割引社会実験に伴う負担金収入5億円を含む。料金収入の()は当該負担金収入を含めた額。

※2 事業計画の当期純利益は関連事業に係るものであり、高速道路事業においては当期純利益を見込んでいない。

【当期の業績】

高速道路事業と関連事業を合わせた全事業において、営業収益845億円に対し、営業費用が827億円となり、営業利益は17億円となりました。これに営業外収益2億円と営業外費用1億円を加減した経常利益は18億円となり、これから法人税などを差し引いた当期純利益は8億円となりました。

各事業における業績は以下のとおりです。

【高速道路事業】

○当期の本四道路の通行台数は31百万台と対前期比で0.3%増、料金収入※は776億円と対前期比で0.2%増となりました。なお、物流の効率化及び観光振興を目的として、料金割引社会実験を実施しました。

○企画割引について、「与島PA Uターン割引」、「休日割引」及び旅行会社と連携した「本四2橋めぐり割引クーポン」を実施しました。

- ETC利用率は平成20年3月で69.7%となり、平成19年3月と比較し5.6%の増となりました。なお、ETCの利用促進を目的として、ETC車載器とセットアップ費用を無料提供する「GET ETCキャンペーン」を実施しました。
- 主な工事として、舗装補修工事、耐震補強工事及び長大橋塗装を実施しました。
- 独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下、「機構」という。)に対する道路資産賃借料は、当初の550億円に実績収入が協定に定める計画収入の変動幅(1%)を上回ったことから24億円を追加し、574億円となりました。
- 以上の結果、高速道路事業では、料金収入及び機構へ引き渡した資産の売上である道路資産完成高などの営業収益820億円に対し、道路資産賃借料、道路資産完成原価、道路の管理費用の営業費用が804億円となり、営業利益は16億円となりました。なお、営業利益は、舗装補修工事の増加等による管理費用の増加により昨年度と比較し、7億円減少となりました。

※料金割引社会実験に伴う負担金収入を含む

【関連事業】

- 休憩所等事業(高速道路のサービスエリア・パーキングエリアの管理)については、お客様に、より快適に、より楽しくご利用いただくために、計画的に施設のリニューアルを実施しました。
- 受託事業については、長大橋の建設、管理技術を活用した海峡横断道路プロジェクトの技術検討や平戸大橋主ケーブルへの乾燥空気送気システム設置、国及び地方公共団体等から道路の維持修繕、一般国道317号生口島道路、大島道路の道路清掃作業、交通管理業務及び機構から本四淡路線・本四備讃線(鉄道)の管理を受託しました。
- 以上の結果、関連事業では、営業収益24億円に対し、営業費用が23億円となり、営業利益は昨年度と同額の1億円となりました。

(2) 貸借対照表

(単位：億円)

区 分		当 期 末 (A)	前 期 末 (B)	増 減 (A)－(B)
資 産	流動資産	190	183	7
	固定資産	219	218	1
	(資 産 合 計)	410	401	8
負 債	流動負債	118	111	6
	固定負債	181	187	△ 5
		299	299	0
純資産	資本金	40	40	－
	資本剰余金	40	40	－
	利益剰余金	30	21	8
		110	101	8
(負債・純資産合計)		410	401	8

【資産の状況】

資産の総額は410億円であり、このうち流動資産は190億円、固定資産は219億円となっています。固定資産の主なものは、料金收受機械設備等の高速道路事業固定資産92億円、S A・P Aの土地及び建物等の関連事業固定資産60億円、社宅の土地及び建物等の各事業共用固定資産53億円となっています。

【負債及び純資産の状況】

負債の総額は299億円であり、このうち流動負債は118億円、固定負債は181億円となっています。負債のうち有利子負債は49億円、うち機構へ引渡す仕掛道路資産分の借入金が20億円となっています。

純資産の総額は110億円であり、国及び地方公共団体からの資本金40億円、資本剰余金40億円、利益剰余金30億円となっています。

2. 連結決算の概要

(1) 連結対象

次の子会社3社を連結対象としています。

会社名	主要な事業内容
J Bハイウェイサービス株式会社 株式会社ブリッジ・エンジニアリング 株式会社T N S	休憩所等事業、料金收受管理、交通管理 点検管理、長大橋維持修繕 料金收受機械保守整備

(2) 連結損益計算書

(単位：億円)

区 分	当 期 (A)	前 期 (B)	増 減		
			(C) = (A) - (B)	% (C) / (B)	
営業収益	高速道路事業	819	787	31	4.0
	その他事業	40	25	14	56.4
		859	813	46	5.7
営業費用	高速道路事業	804	767	37	4.8
	その他事業	34	20	13	65.5
		838	788	50	6.4
営業利益	高速道路事業	14	20	△ 5	△ 26.2
	その他事業	6	5	1	20.6
		21	25	△ 4	△ 16.6
経常利益	23	27	△ 4	△ 14.9	
当期純利益	11	13	△ 2	△ 14.3	

営業収益859億円に対し、営業費用が838億円となり、営業利益は21億円となりました。なお、営業利益は親会社の管理費用の増加等により昨年度と比較し、4億円減少となっています。これに営業外収益3億円を加え、営業外費用1億円を控除した経常利益は23億円となり、これから法人税などを差し引いた当期純利益は11億円となりました。

(3) 連結貸借対照表

(単位：億円)

区 分		当 期 末 (A)	前 期 末 (B)	増 減 (A)－(B)
資 産	流動資産	203	196	6
	固定資産	253	250	3
	(資 産 合 計)	456	446	10
負 債	流動負債	128	125	3
	固定負債	212	215	△ 3
		340	340	△ 0
純資産	株主資本	115	103	12
	少数株主持分	－	2	△ 2
		115	105	10
(負債・純資産合計)		456	446	10

資産の総額は456億円であり、このうち流動資産は203億円、固定資産は253億円となっています。

負債の総額は340億円であり、このうち流動負債は128億円、固定負債は212億円となっています。

純資産の総額は115億円であり、国及び地方公共団体からの資本金40億円、資本剰余金40億円、利益剰余金35億円となっています。

3. 今後の事業方針

【高速道路事業】

- 代替路線のない本四道路の安全性を高めるため、耐震補強工事を継続して実施してまいります。
- 海峡部長大橋の予防保全のため、適時適切な点検と補修を行ってまいります。
- 安全で快適な交通の確保のため交通管理に万全を尽くします。
- ETC設備等の充実、ETCを活用した企画割引、多様な料金割引策の導入、積極的な広報活動などにより、多くの方々に本四道路を利用していただけるよう努力してまいります。

【関連事業】

- 瀬戸内の自然・景観を満喫できる快適な空間の形成や、地元の産物を活かした食事・土産など、お客様に喜ばれるサービスの提供に努めます。
- 長大橋の建設、管理技術を活用した国内外の橋梁への維持管理等の技術支援を拡大してまいります。
- 平成20年度の関連事業における営業利益は、0.6億円を見込んでいます。